

令和7年度自己評価表【中間評価】

鳥取県立鳥取緑風高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	1 基本的生活習慣の確立による、生徒の自己管理能力の育成 2 夢と希望を持ち、世界を広げていくことのできる生徒の育成 3 社会のルールやマナーを遵守する生徒の育成 4 基礎・基本の重視による、生徒一人一人の学力の向上 5 生徒が将来の生き方を意識する進路指導の充実 6 自律性を伴った、生徒の自主性の育成 7 自然環境について考え、行動することのできる生徒の育成 8 授業・スクーリングを通した論理的思考力、表現力、コミュニケーション能力の育成	今年度の重点目標	1 基本的な生活習慣の定着を促す。 2 生徒が主体的に取り組む授業づくり、深い学びにつながる授業づくりに努める。 3 個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実を図る。 4 視野を広げ、他者と協力する体験活動により周囲と豊かな人間関係を築く豊かな心を育成する。
-------------------	---	----------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 （ 9 ） 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
基本的生活習慣の定着	生活の自律	○多くの生徒が時間を厳守した行動ができている中、決められた時間に行動できていない生徒も若干名いる。 ○教室等の環境整備は、普段の清掃などによりきれいに保たれている。 ○廊下のゴミ出しの状況等をみると、ゴミの分別等環境配慮行動に対する意識は、まだ十分とは言えない。 ○定期的な生徒個人ロッカー内の点検と整理指導により、私物の管理が身に付きつつある。 ○就寝時刻が遅い生徒が多い。（R6：午前0時以降就寝が63％） ○スマートフォンやゲームの使用時間が長い生徒がいる。（R6：1日6時間以上の割合が25％） ○むし歯保有率は県平均と比較すると非常に高く、継続治療による保有率低下が必要。（県平均保有率14％、R6：本校保有率55％、治療率18％）	○規則正しい生活を送ることができている。 ○基本的生活習慣（時間・挨拶・マナー等）について考え、行動できている。 ○環境美化に関心を持ち、身の周りの整理・整頓・清掃ができています。 ○午前0時以降就寝の割合が60％以下になる。 ○スマートフォン等の使用時間が6時間以上の割合が20％以下になる。 ○むし歯保有率50％以下、治療率20％以上である。	○積極的な日常の声かけや挨拶、丁寧な面談をとおしてコミュニケーションの具体例（対人関係における挨拶や対話）を提示し、習慣づけに努める。 ○身の周りの整理、整頓、ゴミ分別の徹底を指導し、環境美化に努める。 ○【緑チャレ】との連動も意識した日常の声かけや面談をとおし、基本的生活習慣の指導を行う（緑チャレ：5月生活習慣、11月食生活）。 ○ライフスタイル調査による生活実態の的確な把握と分析を行い、基本的生活習慣定着が不十分な生徒については、個別の声かけや指導を粘り強く行う。	○「私は、時間を守り、自ら挨拶をするように心がけている。」に肯定的回答した生徒の割合は79.5％である。 ○「学校は、挨拶や時間を守るなど生活習慣の定着に力を入れている」に肯定的回答した生徒の割合は85.6％である。 ○授業日においては、午前0時以降の就寝は54％であった。 ○スマートフォン等の使用時間が6時間以上の割合は39％であった。 ○R7定期健康診断の結果、むし歯保有率は41％であった。現在11％の生徒が治療完了した。	B	○日常的な挨拶や声かけを継続し、基本的生活習慣定着の一助とする。 ○身の回りの整理整頓、ゴミ分別を引き続き指導する。 ○【緑チャレ】を利用し、ロッカーの管理について引き続き指導する。 ○基本的生活習慣の定着が不十分な生徒に対しては、個別の声かけや指導を継続して行う。 ○スマートフォン等の使用時間については、目の愛護デーと合わせて啓発活動・保健指導を行う(10月)。 ○今年度のむし歯保有率は過去5年で最少となり、改善傾向であるが、県平均と比較するとまだ非常に高く、引き続き保健指導を行い、治療率の向上に努める。
	個に応じた学力の向上	○進路指導部と各年次や部課程とが連携し、進学希望者には課外指導や模試を活用しつつ指導・助言を行っている。就職希望者にはCA面談や【まなトレ】等でコミュニケーション能力や基礎学力の向上を図っている。 ○「多くの授業は、ICT機器などを使用し、工夫されていてわかりやすい。」に肯定的回答した生徒の割合は90.4％、「先生は、生徒からのさまざまな相談や学習の質問にていねいに応じてくれる。」については95.6％である。 ○【まなトレ】の取り組み内容においては多少の課題を感じつつも、互いに教えあう姿も見られ、学習意欲の醸成にも繋がっている。 ○昨年度の年間単位修得率は定時制74.8％、通信制90.6％である。	○進路を意識して学習に取り組む中で、基礎学力を高めることができています。 ○特に卒業予定生は、上級学校の入学試験や就職試験に対応できる学力を身につけている。 ○「多くの授業は、ICT機器などを使用し、工夫されていてわかりやすい。」に肯定的回答する生徒の割合が80％以上である。 ○社会生活をより良く営むために必要な基礎学力を身につけている。 ○授業を欠席しない環境を醸成することで、単位修得率の向上をめざす。（定時制70％以上、通信制75％以上の継続）	○生徒個々の進路希望を把握し、進学希望の生徒は、課外指導や個々に合った模試を計画的に活用するよう、引き続き進路指導部と年次、部課程が連携し支援する。 ○就職希望の生徒については、CA面談や各種の進路行事に確実に参加するよう指導する。 ○ICT機器を活用した授業実践や公開授業の促進により、生徒が主体的に取り組む、深い学びにつながる授業の工夫・充実に努める。 ○【まなトレ】や課外指導により基礎学力向上を図り、生徒が将来の生き方を見つめる一助となるように努める。 ○毎日の声かけや年間6回の生徒面談を行う。また、教職員間の情報交換を頻繁に行うことで生徒理解に努め、個別のきめ細かい指導を行う。	○生徒の進路希望に応じて、校外模試を活用した指導ができています。 ○学校幹旋の就職希望者全員が、CA面談と進路行事へ参加している。行事ごとの欠席者には後日補充を行っている。 ○9月末時点の就職採用試験では、一般常識の結果による不採用者が少なくとも4名おり、卒業時に求められる学力の定着に向けた【まなトレ】の活用等に検討の必要がある。 ○「多くの授業は、ICT機器などを使用し、工夫されていてわかりやすい。」に肯定的回答した生徒の割合は84.5％である。 ○令和8年度に国のDX加速化推進事業を申請することにより、校内ICT環境の更なる充実が望める。	C	○就職試験内容において、学力、面接、一般常識等各項目における組織的な対策を検討していく。 ○部活動に積極的に関与している生徒において、学力におけるモチベーションもあげていく。 ○確認テスト等、基礎学力の定着状況を図るための取り組みを実施する。 ○校内ICT環境に必要なものを、ハード・ソフト両面から吟味していく。
生徒が主体的に取り組む授業づくり、深い学びにつながる授業づくり	意欲向上と自信づくり	○進路ガイダンスや個別の面談による指導で、卒業予定生のみならず低年次生のオープンキャンパス参加者が増えている。 ○「生徒は将来の進路について考えている」・「将来働いてみたいと思う仕事がある。」に肯定的回答する保護者・生徒の割合が平均で約7割である。 ○特別支援教育支援員のサポートにより、生徒が安心して授業に取り組んでいる。 ○資格取得を促し、【まなトレ】を活用しての準備学習を行っているが、受験する生徒は多くはいない。 ○「鳥取緑風高校での高校生活は全体的に満足できる。」に肯定的回答した生徒の割合は92.3％である。 ○外部講師による授業やガイダンス・体験活動は、生徒の学ぶ意欲向上につながり、オープンキャンパスへの参加も増えた。	○生徒が積極的にガイダンス、進路相談会、体験活動等に参加し、将来の進路を意識した生活を送っている。 ○「生徒は将来の進路について考えている」・「将来働いてみたいと思う仕事がある。」に肯定的回答する保護者・生徒の割合が平均で75％以上である。 ○各種資格試験、検定等の合格をめざし、積極的に学習に取り組んでいる。 ○「鳥取緑風高校での高校生活は全体的に満足できる。」に肯定的回答する生徒の割合が75％以上である。	○生徒の実態や課題に即した講演内容や講師選定、体験活動の推奨を行う。 ○計画的な進路学習を実施し、年次ごとに生徒の自己理解、職業理解を進める。 ○各種資格・検定試験の一覧を提示し、担任、スモールチャレンジ担当者の面談等で受験を意識した助言を行う。 ○特別支援教育支援員による授業サポートや、学生教育ボランティア（緑風ソシオ）による学習指導補助等とおして、学習意欲の向上に努める。	○クラスに卒予生と次年度卒予生が混在しており、進路指導が大変となる時期があるが、各種進路行事に隔てなく案内することで、中期的な意識付けとなった。 ○特別支援教育支援員による授業サポートは丁寧であり、学生教育ボランティア（緑風ソシオ）による学習指導補助は出席率も良くともに充実している。 ○進路ガイダンスや就職講演会等の参加生徒アンケートからは、気づきや前向きな姿勢に繋がったとの声が多く見られた。 ○校外の進学相談会について、担任の声がけもあり19名の申込があった。 ○資格取得等については適宜案内をした結果、漢字検定や家庭科、商業科など、多様な検定に挑戦した生徒がいた。 ○年次ごとの進路学習が単発で終了することが多く、進路実現につながる力の育成に繋がっているかが不明。 ○「生徒は将来の進路について考えている。」・「将来働いてみたいと思う仕事がある。」に肯定的回答した保護者・生徒の割合は平均で61.8％である。 ○「鳥取緑風高校での高校生活は全体的に満足できる。」に肯定的回答した生徒の割合は87.3％である。	B	○クラスを解いて、卒予生（進学・就職）、次年度以降卒予生単位での活動を増やす。 ○入学から卒業までを見通した年次ごとの進路目標を全体共有できる仕組みを作る。 ○資格試験や各種進路行事について、その意義と合わせて生徒に周知することで、主体的に取り組む姿勢を育成する。

	生徒の内面を理解しそれを生かした指導	○生徒への日常的な声かけや継続した担任による面談（6回以上）、SC面談などを行い、生徒理解に役立っている。 ○各部課程・各年次での生徒情報交換と、SC・SSW連絡会を定期的に実施している。また、個別支援ケースについては対応策を職員間で協議し、共通理解をはかり実践に生かしている。 ○「専門医による相談会」を実施し医療機関との連携をはかり、一定の成果が表れている。 ○「先生は、生徒からのさまざまな相談や学習の質問に丁寧に応じてくれる。」に肯定的回答した生徒の割合が95.6%である。	○情報を共有しながら発達課題に応じた具体的かつ現実的な支援を行い、生徒が自立へと努力している。 ○全生徒に対し、担任等による面談を年間6回以上実施するとともに保護者懇談会等を活用し保護者との連携に努める。 ○前年度に比べて不登校（年間30日以上）の欠席）率の改善が見られる。 ○「先生は、生徒からのさまざまな相談や学習の質問に丁寧に応じてくれる。」に肯定的回答した生徒の割合が80%以上を継続している。	○担任等による面談（定時制課程年間6回以上）や様々な場面をとらえ、生徒一人ひとりとののかかわりを大切にした指導に努める。 ○教育相談係会を隔週、SC・SSW連絡会を毎月持つことによって、個々の課題に向けた丁寧なアセスメントや具体的な支援策を策定し実行に移していく。 ○校内支援委員会を活用した組織的な支援により、各部課程をこえた情報共有と個別支援ケースの進捗状況を把握・検討する。 ○医療機関などの各種外部専門機関と連携した支援体制を充実させる。	○定時制生徒の実態把握調査を職員・生徒対象に実施し、個別の支援対策に活用するとともに各部課程・学年ごとの生徒情報交換と、SC・SSW連絡会を実施し、生徒への共通理解を図っている。 ○生徒の実態に応じた職員研修会等を実施し、全職員の適切な生徒理解に努めている。 ○「先生は、生徒からの様々な相談や学習の質問に丁寧に応じてくれる。」に肯定的回答した生徒の割合は93.9%である。	A	○生徒個々に応じた支援のために通級指導や外部機関との連携を図る。 ○引き続き、SC定期面談やSSWの家庭訪問同行等を実施し、生徒の状況把握に努め、各部課程・学年ごとの情報交換に活かす。
個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実	自立をめざす生徒指導	○多くの生徒が挨拶を心がけ、お互いを思いやって過ごす雰囲気が醸成されてきている。 ○「私は、ルールやマナーを意識した行動をとるように心がけている。」に肯定的回答した生徒の割合は94.3%である。 ○問題行動等に対しては、年次、分掌等の関係者が連携を密にしながら生徒指導に取り組んでいる。 ○担任や進路指導部による継続的な面談は、生徒の自己理解促進やキャリア設計能力、社会性育成の一助となっている。 ○【チャレンジシート】の活用は一定の役割を果たしつつも、全体には及んでいない。 ○就職活動をする生徒の大半は、様々な進路行事へ出席することで就労への意識を高めている。	○社会で通用する行動・ルールやマナーの向上の指導をとおして、お互いを思いやる心や自律性と自主性が身につけている。 ○「私は、ルールやマナーを意識した行動をとるように心がけている。」に肯定的回答した生徒の割合が80%以上を継続している。 ○生徒の進路意識が高まり、自分の進路目標に向け積極的に行動している。 ○【チャレンジシート】を活用し、自分の設定した目標に向けて、スモールステップを積み重ねて課題を意識し改善しようと努力している生徒の割合が80%以上である。 ○通級指導などの個別指導において、自分のことを理解し自分らしく生きていけるような力を身につけている。	○生徒一人ひとりとの関わりを大切に声かけや挨拶を交わし、他者を思いやるような言動ができるよう努める。 ○規範意識が身につくよう、ルールやマナーについて適宜指導する。 ○いじめアンケートを活用し、いじめのみならず、問題行動等の未然防止、早期発見に努める。 ○問題行動など様々な課題を抱える生徒に対し、教職員と外部の専門機関とが連携し、適切な関わりを粘り強く行う。 ○進路ガイダンス、進路探究、CA面談等で自己理解、職業理解を深めさせ、生徒に将来の進路について継続的に考えさせる。 ○毎週月曜日のSHR後をスモールチャレンジタイムとし、クラス単位で教員が関わるやり方にする。 ○通級指導や職場見学、就労体験等をとおして、社会生活を送る上で必要な力を育成する。	○多くの生徒は挨拶を心がけ、お互いを思いやって過ごす雰囲気が醸成されてきているが、友人間でのトラブルも散発している。 ○規範意識の低い生徒も一部見られ、ルールやマナーについて適宜指導を行った。 ○いじめアンケートを活用し、問題行動や生徒間のトラブルなどの早期発見に努め、組織的な対応を行っている。 ○「私は、周りの人への思いやりの心を持ち、円滑な人間関係を築くよう心がけている。」に肯定的回答した生徒の割合は86.8%である。 ○「私は、ルールやマナーを意識した行動をとるように心がけている。」に肯定的回答した生徒の割合は90.1%である。 ○通級指導により、生徒の個別課題に応じた体制づくりを構築している。 ○自立や社会参加に向けた進路選択のきっかけ作りとして、親子で事業所を見学する機会を企画した。生徒8名（1年生3名、2年生3名、3年生1名、4年生1名）、保護者1名が参加した。 ○今年度は毎週月曜日に各クラスのSHRで【チャレンジシート】の確認をしており、SHRに出席している生徒は継続的な取り組みが出来ている。 ○校内、校外進路ガイダンス、進路探究等は一時的な刺激にはなったが、その後の進路意識の醸成につなげるのは難しい。	B	○引き続き粘り強く、全教職員で生徒への声掛けや個々の背景に応じた指導を行っている。 ○SNS等の利用に関して、ルールやマナーを適宜指導しトラブルの未然防止、早期発見に努める。 ○規範意識の低い生徒に対しては、個別の声かけや指導を継続して行う。 ○生徒・保護者の希望のみならず、生徒実態把握による生徒理解に努め、職員間の連携を図りつつ、生徒の支援にあたる。 ○保護者懇談や生徒面談を通して、生徒の自己理解を早い段階ですすめる。 ○引き続き【チャレンジシート】を活用しながら、年次と進路指導部で連携し卒業時の進路志望を踏まえた取り組みを生徒に促していく。
視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実	体験活動の活用	○「TEASⅡ」（鳥取県版環境管理システム）の環境改善目標は概ね達成できている。 ○緑風祭や球技大会など、生徒会執行部が中心となり企画・運営ができた。 ○定通総体では、卓球部が全国大会に出場した。 ○アルバイト経験をとおし、社会性を身につけていく生徒が多い。また、インターンシップや長期休業中のアルバイト就業事業に参加した生徒は、自信を得たり、自己の課題を認識するなど、多くの成果を得ている。	○環境目標を達成するための具体的実践に努め、省資源・省エネルギー・SDGs（持続可能な開発目標）に関する意識が高まっている。 ○授業や学級活動、生徒会活動、学校行事等にそれぞれの生徒が積極的に関わっている。 ○アルバイトやインターンシップなどの社会体験に取り組み、進路選択の一助とするとともに、コミュニケーション能力や自己肯定感が高まる生徒が増えている。 ○卒業までにアルバイトやインターンシップなどの社会体験に取り組んだ生徒の割合が80%以上である。	○「TEASⅡ」を適切に運用しながら、環境美化に配慮した実践やエコ活動の推進等を率先して行う。 ○学校行事や【緑チャレ】をとおして、部活動、生徒会活動の活性化を図る。 ○委員会の活動内容を示し、生徒会執行部が中心となり主体的に企画運営できるように支援する。 ○担任や教育相談部と連携して情報を共有しながら、生徒個々の状況に合わせ、アルバイト、インターンシップのいずれかを原則2年次終了までに体験するよう推進する。	○「学校はゴミの分別や持ち帰り、資源の節約などの環境問題について力を入れて取り組んでいる。」に肯定的回答した生徒の割合は82.9%である。 ○バレーボール部男女、バドミントン部、陸上競技部から計20名の生徒が全国大会に出場するなど、活発に活動している。 ○生徒会執行部が中心となり、緑風祭の準備に取り組んでいる。 ○9月末時点のインターンシップ参加生徒は29名（定通）であった。アルバイト許可申請をしている生徒は、1年次5/60名・2年次24/60名・3年次13/52名・4年次14/22名（定時のみ）であった。	B	○【緑チャレ】や「スモールチャレンジ」の目標・取り組みに取り上げる等、個々の意識を高める。 ○緑風祭や学校行事等の中で、生徒同士が主体的に話し合ったり、協力し合ったりする場面をつくる。 ○インターンシップに参加して終わりにせず、個々の生徒が適切に自分を振り返り進路実現に繋げるための評価の仕組みを考える。
	集団への適応力の育成	○「鳥取緑風高校は、自分にとって安心して通える学校だ。」に肯定的回答した生徒の割合は91.8%である。 ○生徒面談前にhyper-QU研修を行い、結果をクラス経営に活用している。また、ユニバーサルデザイン（UD）を学習環境や授業に取り入れ、「わかりやすい授業」の展開に努めている。 ○SCによる定期面談実施、SSWの校外機関への訪問・連携、担任の家庭訪問同行等を実施し、生徒状況等の把握に努めている。 ○問題行動等に対しては、保護者連絡等をこまめに行うことで、校内外の連携を密にしながら生徒指導に取り組んでいる。	○「鳥取緑風高校は、自分にとって安心して通える学校だ。」に肯定的回答した生徒の割合が80%以上を継続している。 ○年2回実施するhyper-QUにおいて、強い孤立感や孤独感が示唆されている生徒の数に顕著な改善がみられる。	○【緑風ハートフル】などの活動をとおして他者とののかかわり合い、人間関係づくりを促す。 ○担任とSC、SSWとの協力によって家庭訪問や校外専門機関との連携を強化し、生徒の人間関係作りを支援する。 ○ひきこもり傾向の生徒に対しても、定期的な家庭訪問等の適切なかかわりを粘り強く継続する。 ○hyper-QUや生徒実態把握の結果を生徒面談やクラス経営に積極的に活用する。	○長期欠席等の生徒に対して担任、教育相談部や進路指導部などが連携して働きかけ、仲間作りやアルバイトやインターンシップの体験に繋げている。 ○「鳥取緑風高校は、自分にとって安心して通える学校だ。」に肯定的回答した生徒の割合は89%である。 ○hyper-QUを実施したが、結果が間に合わず部課程職員で共有できなかった。	B	○転編入生や長欠の生徒については、学期開始後早々に担任・SC面談を実施する。 ○教育相談部と進路指導部、生活指導部との連携を密にし、生徒個々に応じた支援に繋げる。 ○気になる生徒について情報を共有し、早めにSC面談や専門機関につなぐ。10月実施のhyper-QU結果を部課程職員間で共有する。 ○様々な課題を抱える生徒に対し、引きつづき適切な関わりを行う。
業務改善の取組	時間外勤務時間の縮減	○時間外業務時間月45時間以上の者はいない。 ○会議は1時間以内に終わるよう取り組んでいる。 ○学校行事等により長時間勤務となる時期がある。	○業務の削減、簡素化、見直しを行い、業務が効率的に行われる。 ○関係者間で情報共有されることで組織的対応を可能とし、年次有給休暇を取得しやすい環境となる。	○日ごろから教職員の業務内容や勤務状況を把握し、リフレッ週や、はよ帰らデーなどの取り組みを活用して、時間外業務縮減を継続する。 ○ICTを活用した情報共有を推進し、会議の効率化、業務の精選を意識した行動など、業務効率化を図る。（事前準備等） ○長期休業中、定期考査中の年休取得の呼びかけを行う。	○毎月の衛生委員会報告では、月平均20時間を超える時間外勤務の教職員はいない。 ○2学期から教職員ポータルサイトを運用していて、より一層の業務効率化を図っている。	B	○業務の平準化を検討しながら、一部の教職員への負担増を減らす。 ○全教職員が、DX化推進に取り組むための、具体的なアナウンスや研修を行っている。 ○引き続き年休取得の声かけを行っている。